

TRACE32® – Windows 10 もサポート

2015 年 4 月 ドイツ ヘーエンキルヒェン＝ジーガーツブルン

マイクロプロセッサ開発ツールのリーディングカンパニーであるローターバッハ社は、Windows® Standard OS ファミリのサポート拡張し、最新版 Windows® 10 の 32bit 版、64bit 版のサポートも始めました。TRACE32®は、シングルコア、SMP システムによらず、カーネルモジュール、ドライバ、プロセスおよび DLL の開発およびテストを容易にします。JTAG インターフェースが装備されている全ての x86/x64、ATOM™ ボードでご利用になれます。

Windows® 8 の後継版、コードネーム「Threshold」で呼ばれる Windows 10 は、現在試用版として「Windows 10 Technical Preview」が公開されており、2015 年後半に製品版が発売される予定です。ローターバッハ社は、TRACE32 デバッガの「Windows Standard 認識機能」を既に拡張し、発売予定の最新版も加えました。

ユーザは「Windows Standard 認識機能」を使用して現行のプロセス、スレッド、ライブラリ、カーネルモジュール、ドライバを調べることができます。TRACE32 デバッガの MMU 拡張サポートを利用すれば、開発者はいつでも仮想アドレス空間全体にアクセスすることができます。つまり、デバイスドライバとアプリケーションの同時デバッグが可能です。同時に、複数のプロセスを一度にデバッグすることもでき、プロセス間通信やドライバコールをテストするのに特に便利です。

TRACE32 は、JTAG インターフェースを通してターゲットシステムにアクセスします。特別な OS 設定、インターフェース、ドライバのいずれもターゲットのデバッグに不要です。システム全体が「ハング」したとしても、デバッガは全てのシステムリソースを表示することができます。この「ストップ・モード・デバッグ」では、デバッグスタブのような実行中のソフトウェアは不要であり、さらに割り込みのデバッグも可能です。割り込みのエントリポイントから、ISR まで、ドライバや対応するアプリケーションでさえもデバッグすることができます。

ターゲット動作後のデバッグ手法もサポートされています。動作時のメモリイメージを TRACE32 の x86/x64 インストラクション・セット・シミュレータにロードすることができ、MMU 構成レジスタを設定して Windows 認識機能を読み込むと、メモリイメージのダンプが作成された時点のシステム状態に簡単にアクセスできるようになります。

ローターバッハ社の Windows 認識機能は、完全に SMP に対応しています。デバッガはいつでもどの CPU へも切り替えることができ、各 CPU およびハイパースレッドの様子を表示できます。全てのアクティブ/パッシブアプリケーションスレッドのコールスタックを診断し、アクティブスレッドが現在どこで実行されていて、パッシブスレッドがどこで待ち状態にあるのかを表示します。ターゲットシステムは全ての CPU 間で同期的に実行/停止が行われ、ブレークポイントにヒットした際には、どの CPU がブレークポイントに到達したかに関係なくシステム全体が

停止します。その際に、デバッガは自動的に表示をブレークポイントに達した CPU に切り替えます。

本機能を使用することで、開発者はシステム全体および全てのリソースにアクセスでき、CPU レベルではなく、システムレベルでのデバッグを実現します。

Windows 10 サポートは即時入手可能です。

LAUTERBACH, TRACE32 μ Trace and other LAUTERBACH products and services mentioned herein as well as their respective logos are trademarks or registered trademarks of LAUTERBACH. All other product and service names mentioned are the trademarks of their respective companies.